小兒の傳染病（その四）

醫學士　石塚保吉

△百日咳

百日咳は時期を撰ばないで起る傳染病でありますが、やはり呼吸器病の多い寒い時分、卽ち冬から春にかけて多いのであります。隨分擴がつて居る病氣で大抵の人は一度かゝると云ふてもよい位であります、麻疹と同じやうな勢をもつて居ります。年齡も多くは一歲から三歲位の時が數では一番多いが、如何なる年齡でもかゝらないことはない、生れて十日目位の子供も罹れば、大人も罹ることがあります。今迄大人にはないやうに云はれて居つたのであるが、大人が罹ると子供のやうに劇しくなく、割合に早く癒るから百日咳ではないと思はれて居つたが、實際は子供と同じやうに、その咳をする場合が多いから、やはり大人も百日咳に罹ると云つてよいのであります。

大抵の傳染病は、極小さい子供はあまり罹らない、このはつきりした原因はわからなかつた。多分親の免疫が一定時間は傳はつて居るためであらうと思はれるが、此の病氣ばかりは生れたての子供でも罹る。

傳染の仕方は非常に猛烈で、一家に一人あると同胞十人あれば十人皆が皆、一人も殘らず罹つてしまふ。そういふ時に乳飲兒があるとやはり移る。ほんの一寸の間、咳をする人の傍に居つたり、見舞に行つて二三分話をしたりして移つて歸るので非常に恐ろしいのである。それで移つても一週間位わからないで、それから發病する。併し此の百日咳は人々が皆よく知つて居る咳であるが、始めからあのやうな咳をするのではないので、それ〳〵時期がある。始め一二週間はカタル期と云つて、

その時分は普通の風をひたいた時位で少し咳が出る、又眼が赤くなり、鼻汁が出るといふやうに粘膜のカタルと同じで、外のものと區別が出來ない。たゞ外のものは手當をすれば癒るが、百日咳はカタルの手當では癒ならないのみならず、症狀が增して、だん〳〵百日咳らしくなつてくる。卽ち咳が間を置いて、發作性になり、强くなつて痙攣期に入る。百日咳のことを痙咳といふ位、痙攣性を帶びて居るのである。その時期になると、特有の咳になります。御存知の通り細かい咳が重なり、子供は眞赤な顏をして非常に苦しさうで、息が塞つて吸氣をしないから、唇が紫色になる。それがすむと特有の深くあると引く息をする。我々の方ではそれをメプリーゼと云ひます。それがすむと一度止みます。發作と發作との間は、それ程苦しまない、殆んど平常とかはらない、今迄苦しんで居たと思ふと、子供はすぐ笑ひかけたり、遊びに出かけたりする。咳の時は粘ばり氣の强い透明な痰と、唾の交つたやうなものを口中に出す。とつてやると長く引いてとれます。そういふ發作は晝より夜の方が多く、回數も輕いうちは四五回から十四回位、重いのになると四十回、五十回になります。かういふ風で二三週間續いて輕快期に入ります。卽ち漸く回數も遠ざかり、一度の强さも減じて周圍の人もやつと安心することが出來るといふやうになります。

此の病氣はそれ程いやな病氣で、心配されるが豫後は惡くない、生命に係る程ではないので、多くは助かります。併し哺乳兒が罹ると必ず肺炎或は腦膜炎を起して、助からないのであります。

豫防法は、流行時は殆んど手段がないと云つてもよい位、盛に移りますから、一切外へ出さないで居る外はない。若し一家のうちに入つて來たと思ふやうであつたら、直に外に子供を移さねばならぬ。

手當法は御承知の通り、確實な療法はまだない

のであります。我々の方では一番いやな病氣で藥も方法も澤山あるが、これなら療るといふのはない。併し昔よりは進歩して居るので全經過を三分の一位に縮め、苦しみを尠くすることは出來ます。一種の黴菌のために起る病氣であるから、普通のカタルの樣に、寒い處に出てはいけないとか、室を暖めるとか、湯に入つてはならないかと云ふことはない。却つて天氣でもよければ庭へ出て清い空氣を吸ふ方がよいのであります。吸入も普通のカタルの時と違ひ、石炭酸の極薄い液を用ひてするのである。それから病室の空氣を消毒する意味で、石炭酸を布片に浸して室内に掛け又は、クレオソートを綿に浸しで糸で寢臺の下に吊して、室内の空氣を清潔にする法もあります。空氣をきれいにする必要があるので寒い時分は二室療法をすることもあります。それは病室を二つ拵らへ、寢臺、寢衣等すべて二通り備へて室を交換して使ふのであります。一日一方の室に居つて、その間一方の室は明け放ち、寢具、衣類すべて日光に曝して消毒し、翌日患者を裸にしてその室に移し、今迄居つた室を同じやうに消毒するのであります。普通の氣管支カタルは湯に入るは禁物である。實驗上たしかに惡いのである。室内の溫度が一定して居ればよいが、斯ういふ吹き曝しのやうな家では、どうしても風をひくからであります。處が百日咳の場合は湯にはいつても構はないのであります。

百日咳自身には熱はないが、若し熱が加はると餘病が起つた證であるから特に注意して醫師に尋ねる方がよい。若し餘病に肺炎が起ると、普通の肺炎より質が惡いから注意して防がなければならない。又結核が起ることが屢々ある。永い間の咳で呼吸器が傷むで居るから、若し結核の素質があると、眞物にある。百日咳と麻疹とは仲がよく、續いて起ることがよくあります。兩方をすると更らに續いて肺炎をすることが屢々あります。昨年

も此の近所で、一家に三人の子があつて、三人共順々に此の三通りを病んだことがありました。これ等の病氣の間に密接な關係があるのであらうと思はれます。

△腸チブス

大人の傷チブスは隨分面倒なもので、非常に恐るべき病氣としてあるが、子供の傷チブスは割合に輕く、手當さへよければその爲めに生命を失ふことはあまりない。症狀も、態も大人のとよく似て居ります。卽ち主なることは熱が出るのてある。二三日工合が惡くつて後熱が暫く續き、漸々下つてなほると云ふのが大人のと似て居りますが、大人のは四十日もかゝるが、子供のは三週間位で濟みます。熱もそれ程高くなく、いやな腸穿孔とか、腸出血とかはなく、脾臟が腫れたり、薔薇疹等のこともない。併しそれがため診斷は難しいので、最も確實な診斷法はチブスの凝集反應をしてみるのである。斯くの如く子供が此の病氣になると徵候がないから、ある時はインフルエンザと間違へられたりその外盲腸炎と間違へられることがあるが、氣をつけてみればわかるのであります。

大人のチブスと同じく食物から入るのであるから、患者の汚物を洗つた水に關係したものを口に入れなければ移らないのである。故に近所にある時は、生水を使はないとか、近よらない樣にするとか注意すれば免れることが出來る。

斯ういふ病氣の時には特別の藥はないので、ただ病氣の番をして居つて、自然の經過を待つ、卽ち待期療法より外はない。多くの人は熱を恐がつて熱さましを呉れと云ひますが、藥を用ひて熱を下げるのはよくないのでありますから、濕布をする位の手當をして置くのであります。注意すべきことは食物で、必ず流動食にすることを嚴重に守らなければならぬことは、大人の時も同じであるが、子供の時にも殊にそれを守らなければ非常な過ちを起するであります。パラチブスは腸チブス

の今少し輕いもので、黴菌が違ふのでありますが、特にお話しする程の必要はありません。

腸チブスも、パラチブスも熱ばかりが主なる徵候であるから診斷が難かしいので、すべて斯ういふ病氣は診斷を確實にしないでも手當の方法は大抵一致して居るのでありますから、若しそういふ病氣にかつた時は、診斷をやかましく云はないでも、過ちはないのであるから、痛い思ひをして發泡を貼つたり、手數をしたりしないでも、醫師に任せて安心して居る方がよいのであります。

△疫　痢

これは春から夏にかけて非常に多い病氣であります。病源に就ては今なほ議論が喧しいので、或は大腸菌と云ひ、小兒赤痢と云つて居るが、原因はとにかく、一種かはつて猛烈なる病氣である。此の病氣は哺乳兒は決して罹らない。三歲位から十歲位迄つまり普通の飯をたべるやうになつてからの子供が犯されます。殊に平生非常に丈夫だと云つて誇つて居る人は、いつも丈夫に任せて食物が亂暴になるからであります。昨年もつい近くの三歲位の子供が、櫻實を兩手に一杯盛つて二度もたべたといふやうな亂暴から起るのであります。

此の病氣も徵候とするものがない。たつた今迄元氣で居たものが、一眠りすると忽ち四十度位の熱が出て非常に驚くことがある。精神がぼんやりして、急性の中毒症狀を起し、腦膜炎のやうになつて來ます。下劑をかけると、澤山の不消化物を排泄し、後から非常にいやな臭のする粘液便を多量に出す此の病氣は非常に恐ろしいので、前晩の夕方の始まると、翌朝はもう痙攣を起したり、心臟痳痺卑を起したりして亡くなつてしまふ。その早いこと實に驚く程である。腸の中に黴菌が急激に繁殖して猛烈な毒を吐き出し、その中毒に由つて起る病氣なのであります。

療法としては、その毒を一時も早く排泄するよ

り外ないのであります。始まつたらその夜を過さず醫師にみせて手當をしなければならない、明日になつたらなどと云つて居るともう手後れになつてしまひます。此の病に罹つたら殆んど絶對に望みはないと書物にある位なのであります。熱が出たら直に醫師にみせると、醫師は腸を洗ひ、下劑をかけるといふことが唯一の療法である。洗腸も普通は五百位と云ふ處を三千、四千、若くは五千と云ふ位、澤山の水を入れて洗ひ、二時間か、三時間置きにそれを繰り返し、一方に下劑をかけて上の方にあるものを排泄し、なるべく短時間にすかり排泄させてしまへば、生死の境を脱することは出來ます。それから癒るまで一月位はかゝるのであります。

家庭教育手工應用 玩具の造り方

英國手工視察員 デヨーヂ、デヨンソン著
東京女子高等師範學校助教授 藤五代策譯

はしがき

「家庭は子供の懐く樣にせねばならぬ」と云ふ諺がある。何んな子供でも物を造ると云ふ嗜好を持つて居る、而して此の嗜好は良い家庭に於ては或る程度までは滿足されて居る。然るに現今一般の家庭を觀るに、技巧を凝した玩具に隨分餘計な金をかけて居る樣であるが、之は徒らに子供が自身で自身の玩具を作つて試やうとする貴重な機會を奪ふ樣なものである。今日の玩具の機械の如き